

地域支援かわら版

第4号
令和7年3月7日(金)発行

埼玉県立狭山特別支援学校 〒350-1327 埼玉県狭山市笹井 2958
 でんわ:04-2953-1612
 Fax :04-2969-1033
<https://sayama-sh.spec.ed.jp/>



地域支援部
のテーマ

ささえあう
やさしい
まちづくりを

子どもたちが地域に戻ったとき、気軽にサポートしてくれる人、やさしく見守ってくれる人がたくさんできますように……と、地域に優しさの種を蒔く活動をしています。



この子らを世の光に

校長 田中 理子

本校に着任して1年が経とうとしています。この間に児童生徒とのたくさんのふれあいがありました。手作りのいももちを「食べてください」と校長室まで運んでくれたAさん、修学旅行先のバスの中で「こうちょうせんせい・・・」と何度も恥ずかしそうに声をかけてきたB君、氷のかけらを「宝物」のように私の手のひらに置いてくれたCさん、みんな私に何らかの思いを伝えたくて、自分なりのコミュニケーション方法で関りを求めてきました。校長である私を思いやる心遣いに気持ちが何度も温かくなりました。

本校の児童生徒は、人懐っこくて「人と関わるのが大好き」です。それは人間関係の基本であり、「人とつながる力」を持ち続けることができれば、障害の程度にかかわらず、社会に出て自分らしく生きていけると信じます。

表題の「この子らを世の光に」というメッセージは「社会福祉の父」と言われた糸賀一夫氏の言葉です。糸賀氏は、障害のある子どもたちこそ、社会の中で希望と光をもたらす存在であるという強い信念を持ち、障害者の福祉と教育に一生を捧げました。「この子らに」ではなく「この子らを」とするところがポイントです。実に、100年以上も前のこの言葉が現在の福祉と教育の現場で光を放ちつつあります。特別支援教育に関わって40年近くなる私も日々、実感しています。

学校の課題に対して「得意な子」もいれば「苦手な子」もいる。「早くできる子」もいれば「時間のかかる子」もいる。互いの特性や個性を尊重し合って、他者を思いやり助け合えば、もっともっと社会は人に優しくなれると思うのです。そしてそのことを証明してくれるのが本校の子どもたちなのです。人が好き、人と関わるのが大好き、そんな気持ちで日々他者と接していたら争いごとや諍いがこの世から少しでも消えるのではないのでしょうか。

狭山特別支援学校の子供たちが、将来地域社会とつながりその子らしく輝く日を夢見て。どんな人も認められ共に輝くために狭山特別支援学校という特別支援教育の現場から、大切なことを発信し続けたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



本校HP

